

地域連携だより

No. 2

「もう診てくれないの?」

最近、ほかの医院で診てもらおうよと紹介状をわたされた。もうこの病院では診てくれないのか?というお尋ねが寄せられています。

各診療科の外来では、患者様の病状が安定し、精密検査や入院を必要としない患者様に対し、他医院の受診を勧めるため担当医から紹介状をお渡ししています。

医院と病院の連携、機能分化

紹介状をお受け取りになった患者様は、担当医が紹介する医院、またはかかりつけ医院に紹介状を持って受診していただきます。(受診先がわからない場合は、地域連携室にご相談下さい。)

紹介状を受けた医院では、紹介状をもとに診察を行い、診察によつて患者様の病状に変化がみられる場合には、再度当院への紹介や病状によっては他病院などに患者様を紹介します。

患者様は、この紹介により病院で検査、入院、手術など必要な医療を受けることとなります。このように医院と病院との連携と機能

分化を病診連携といえます。病診連携は、国や医師会などでも積極的にすすめています。

病診連携は、なぜ必要なの?

病院は主に救急患者、入院、手術が必要な患者を受け入れるための病院(急性期病院といえます)です。

急性期病院に、急性期の医療を必要としない患者様が多数診察におみえになると急性期医療を必要とする患者様の診療に影響を与えかねません。病院が急性期医療にその使命を果たすためには病診連携がどうしても必要になってきます。

病診連携にご理解とご協力をお願いします

このように、医院と病院とは病診連携により患者様へのより良い医療提供を行っています。もう診ない。ということでは決してありませんので、どうぞご安心ください。病診連携にご理解いただきご協力をお願いいたします。

中学生、生き生きと勤労体験



勤労体験を通じて働くことの大切さを知り、今後の学習に役立てようと、今年は8月に8人の中学生が当院の職場を体験しました。

医療助手のお手伝いなど職場の人たちといっしょになって頑張ってくれました。

働く人々に接し、その姿や意見を見聞きすることで、社会生活・職業生活を営む上でのマナーやルールの大切さを学びました。

病態栄養専門師認定試験に合格!!



五島院長

西尾富代

松浦裕美子

臨床におけるより優れた栄養管理を行うために、栄養士及び健康管理従事者の資質向上を図り、国民の健康増進に貢献することを目的に、日本病態栄養学会より認定される「病態栄養専門師」の試験に、栄養管理室の松浦裕美子さんと西尾富代さんの2人が合格しました。

今後とも臨床栄養管理にますますの活躍を期待します。

